



WEEKLY REPORT

2018.6.22 NO.2463

八幡西ロータリークラブ



ROTARY: MAKING
A DIFFERENCE

ロータリー:
変化をもたらす

例会場・事務局 北九州市八幡東区西本町1-1-1千草ホテル
TEL093-681-0694 FAX093-681-0984
例会日: 毎週金曜日 12:30~13:30

2017~2018年度
会長 吉田総次郎
副会長 岩崎 員久
幹事 富田 稔

《会報委員会》

松尾 和典 大坪 隆 赤田 隆一
有松 稔晃 櫻井 久紀 中村 克己
棚野 晴司

RID2700地区安増惇夫ガバナーマッセージ
『拡がりは変化をもたらします』

3つの拡がり

①会員の拡がり ②奉仕の拡がり ③対外広報の拡がり

次回例会のお知らせ 6月29日「会長・幹事離任の挨拶」

会長 吉田総次郎・幹事 富田 稔の諸君

【本日の例会】 2018年6月22日(金)

1. ロータリーソング 我等の生業
2. 来客紹介
3. 出席状況の報告
4. 祝誕生 緒方 忠君 S39年6月16日
松尾和典君 S35年6月18日
5. 会長の時間
6. 各委員会報告
7. ニコニコボックスの報告
8. 幹事報告
9. クラブアッセンブリー (各委員会活動の実績報告)
各委員長報告

【前例会の記録】 6月15日(金)

例会食事カロリー	1,080 Kcal
出席報告	
会員数	50名
当日の出席数	39名
ゲスト数	1名
ビジター数	名
会員出席率	80.00%
6月1日の修正出席率	93.75%
ゲスト:<スピーカー>今川 英子 様	
(北九州市立文学館 館長)	

【会長の時間】 会長 吉田 総次郎 君

6月11日に第2グループ、北九州の八幡以外の11クラブの会、「イレブンの会」に稲富ガバナー補佐と富田幹事と私の3人で参加しました。八幡の4クラブが第3グループになっているので、安部ガバナー補佐から、「北九州全体で盛り上がり」と参加依頼がありました。4クラブの会長・幹事全員で出席させて頂きました。次年度は未定ですが、この流れは続くかもしれません。長期計画委員会で各委員に報告致します。

【祝誕生】

吉田 総次郎 君 昭和30年6月10日生

皆さん、お祝いして頂きまして有難うございます。6月10日で63歳になりました。5月に宇治に居る息子に子供が生まれたので、6月9日と10日で家内と二人で宇治に行きました。私は孫に会いたいばかりで、誕生日の事は忘れていましたが、息子から宇治の薬膳中華料理の招待を受け、そこで家内・息子・娘のそれぞれからプレゼントを貰いました。孫に会えて・誕生日も祝ってもらい・宇治川の近くの宿に泊って、とても良い誕生日でした。「幸せだな・・・」と思いました。これからは人や社会の邪魔にならず、役に立つように生きていきたいと思っております。



【ニコニコボックス】

本日の卓話者 北九州市立文学館 館長 今川 英子 様を歓迎して。
貞方、山口、井上、岩崎、伊豆、藤村、稲富、浜崎、安東、是此田、江崎、正木、永吉、村山の諸君

息子の到津動物病院、完成しました。安東さん、緒方さんお世話になりました。
富田さんにも少しお世話になりました。(笑)

大林 君

大林先生、昨日は物件を引き取って頂き有難うございました。

緒方 君

早退のお詫び。

坂本、高橋の諸君

誕生自祝

吉田 君

【卓 話】 「北九州市の文学事情について」
北九州市立文学館 館長 今川 英子 様



皆さん、こんにちは。ご紹介頂きました今川でございます。本日は30分という短い時間ですので、文学の歴史については簡単に説明し、八幡に縁があり、しかも現在活躍中の作家の方々をご紹介したいと思います。そして是非皆さんにも本を手にして頂きたいです。現在は読書時間“0”、という大学生が実に50%を超えています。このような読書離れが進む中、私達は小さな子供から読書の楽しみを教えて行きたいと考えています。その前に大人である私達が読書とはどんなに素晴らしく楽しいものか、読書の愉楽を知らないことがどんなに損な事なのか。まずは大人が理解しないと子供には伝わりません。

北九州の文学と申しますと、「文化の砂漠のようだ」と言う言葉も生きていた時代もありましたが、歴代の市長が尽力したお陰で「文化の砂漠」という言葉は、ほぼ完全に消えていると思います。それはこの町が官営八幡製鉄所、門司鉄道管理局、商社や銀行の支店などの文化が中央の東京からストレートに降りてきたと言うことと、ある意味良質な労働者が集まったと言うことで、今のように誰もが大学に行ける時代ではなく、学問をしたいけれども、そう言う事情ではなかった。でも、向学心に燃えた労働者が集まった事で、勤めながら何か自分を表現したい。その一つとして文学があったのだと思います。職場で発行される雑誌の中に文芸欄があります。そこで文芸欄で編集等、あるいは読者だった人達が今度は自分たちで同人誌を作り、北九州では600種類の同人誌が出たと言われているくらい、とても盛んな町でした。その中で色々な人が輩出していきます。

岩下俊作・劉寒吉・火野葦平、この3人は共に明治39年生まれです。それぞれ、岩下は八幡製鉄所を定年まで勤め、劉は小倉の魚町のパン屋の息子で、火野は若松の玉井組の若親分でした。火野は「糞尿譚」という作品で昭和13年に第6回芥川賞を受賞したのを機に小説を書き始めます。岩下は初めて書いた小説が「富島松五郎伝」と言い、後に「無法松の一生」となるのですが、この作品はすぐに芥川賞候補に上がるくらい当時としてはレベルの高いものでした。それから杉田久女は日本の女流俳句の草分け的な存在で、この方は小倉に来てから俳句を始めました。先程申しました職場雑誌とか同人誌の中から、佐木隆三さんとか現在活躍中の村田喜代子さんも輩出しています。子供達にはこの町を誇りに思ってもらい、文化が豊かな町であるという認識を持ってほしいと思いつつながら私達は活動を続けています。

八幡に縁の作家の方達とお勧めしたい本を紹介させていただきます。村田喜代子さんは八幡で生まれ育った方です。「鍋の中」という作品は黒澤明の「八月の狂詩曲」で映画化されました。彼女は先頃、日本芸術委員会会員にもなりました。作家としては最高の地位です。

平野啓一郎さんは、明治学園、東筑高校を経て京都大学に入学し在学中に「月蝕」という作品で芥川賞を受賞し、三島由紀夫の再来とまで言われました。松尾スズキさんは劇団「大人計画」を主宰しています。佐伯泰英さんは、時代小説を書き出し多くの読者を獲得しました。

最後に八幡ではないのですが、先程亡くなられた、葉室麟さんを紹介して終わりたいと思います。葉室麟さんを読まれている方は沢山いらっしゃると思いますが、一番素晴らしいのは直木賞を受賞した「蝸ノ記」です。限られた命を生きる人間の静謐な覚悟が描かれています。この作品は映画にもなりました。